



平成29年 12月の園だより



生活発表会 (3・4・5歳児)

- 日時 12月 2日(土) 9:00~14:30
- 場所 第二みみよう保育園5階ホール
- 内容 ◆第一部・3歳児 9:00~
- ◆第二部・4歳児 10:30~
- ◆第三部・5歳児 13:00~



子どもたちが毎日、劇や、合奏、表現などを楽しく取り組んできました。当日は、様々な姿が見られることと思います。



12月21日(木)

昔は、どこの家でも年末に餅をつく杵の音がひびきわたっていました。今では、臼、杵、釜、蒸籠といった道具も家庭で少なくなっており、機械でついたり、店で買ってきたりしているようです。

もちは「望」に通じ、物事が満ち足りたことをあらわします。正月に餅を供えて家族みんなが満身に、希望がかなえられるようにと願うのが習わしでした。

当園では、21日に2歳児クラス以上の子どもたちが5歳児のおじいちゃん、おばあちゃんにいろいろ教えていただきながら、一緒にお餅を丸めたり、つくところを見たりして、楽しく過ごします。

べったんべったん



消さないで あなたの心の 注意の火

広島市南消防署 警防課救助係

「生活発表会のねらいと保育の考え方」

朝夕の寒暖差が激しいこの頃ですが、インフルエンザの流行期がいよいよ訪れました。ワクチン不足を心配しておりますが、手洗いとうがいの励行と、栄養、睡眠を十分にとることが予防上とても大切になります。お子さんの体調には十分に気をつけてあげてください。

さて、12月2日(土)には3・4・5歳児の生活発表会があります。みみようでは、年間を通して様々な行事がありますが、行事中心として考えるのではなく、あくまで日常の保育中心、子ども中心でありたいと考えています。従って、生活発表会も、子どもたちの日常保育の延長線上にあるものと考えています。何より、子どもたちの“やってみよう”という意欲を大切に、様々なことに友だちと交互に刺激し合い協同して挑戦していくという気持ちをどう膨らませていくかに重点を置いています。見栄えや出来栄はあまり重視していません。

年長児はテーマづくりからスタートします。どんな劇をしたいのか、どんな曲で踊りたいのか、どんな楽器を使って演奏したいのか、子ども同士で「対話」しながら、普段のあそびの中から、あるいは絵本や物語、時にはテレビや音楽などを参考にしながらイメージを膨らませていき、それぞれの役柄や衣装、演奏する楽器などを自分たちで決めていきます。保育者は、その子なりにイメージを膨らませていくためのきっかけづくりといたに「対話」を発展させていくかということを中心に考えています。

現在、幼児教育・保育の無償化が進められようとしており、子どもの教育・保育への関心が高まっています。そうした中、子どもが主体となって協同的な学びが注目されています。平成30年には保育所保育指針(保育所保育のガイドライン)が改定さ

れますが、これまで通り子ども主体のあそびを通じた保育、子どもたちにとって最良の環境による保育が継承されます。保育者が一方的に手とり足とり丁寧に指導をするのではなく、子どもが主体的、能動的にあそび込む中で人との関わりと対話を通して学ぶことを促すという考え方です。この学びを「アクティブ・ラーニング」と言い、コミュニケーションスキルや探求心、物事をやり抜く力を総合的に高めることがねらいとなります。「ああしなさい!」「こうしなさい!」といった一方的な指導は「させられている感」につながり、生きる力につながらないということが明らかにされています。

いずれにせよ、どのような子どもに育てほしいのか、子どもが主体的に学ぼうとする環境はどうあるべきかをもちと議論する必要があります。そのためには、乳幼児期は、遊びが学びであり、学びが遊びであるということをおもい(保育者・親)があらためて理解しなければならないと考えます。

遊びを通して様々な経験をし、遊びの中で気づき、自らが考え、工夫し、他者と関わりながら、様々なことに粘り強く挑戦する。その結果、できなかったことができるようになる。そして達成感を味わう。この繰り返しが、意欲につながり、生きる力へとつながる。みみようにおいてもこの過程を大切に保育を引き続き実践していきたいと考えています。

最後になりますが、生活発表会に向け、子どもたちは、日々楽しみながら練習をしています。少しずつですが自信を持って演じることができるようになってきました。生活発表会当日が楽しみです。笑顔と声援いっぱい楽しいひとときとなりますようご協力をお願いします。

成道会 12月8日(金)

インドのシッダルタ王子(後のお釈迦様)が長い修行の末、お悟りを開かれた日が12月8日です。この日は、成道会の式を行い、「良い子になりますように」とみ仏様に手を合わせます。健やかに、そして、『感謝と思いやり』の心を持ち、『何事にもやる気のある子ども』に育ってくれることを念じています。

大晦日

12月31日



「みそか」とは30日のことで、一年の最後の日を「おみそか」と言います。大晦日の夜、除夜の鐘が108回鳴ります。これは、人間の煩惱が108つあるという仏教の教えからきたもので、それを取り去って新年を迎えるわけです。107回を年内に、最後の一つを新年につきます。

子育て応援メッセージ

子どもがいる社会は

すばらしい



子どもが社会にいるのは、大人にとって、すごくいいことです。子どもの笑顔は大人を幸せにします。子どもと一緒に「うれしい」「良い時間を過ごせた」という満足を味わうと、この子たちがこれから生きる世界をよりよくしたいと思う気持ちが自然と強くなるものです。

日経BP社 中川李枝子著 「ママ、もっと自信をもって」 より